平成２６年度第８回「知事と一緒に生き活きトーク」の発言要旨

１　テーマ：発達障害のある方々のトータルライフ支援の実現に向けて
２　日　時：平成２６年１２月２４日（水）
３　場　所：旭川荘療育・医療センター
４　参加者：発達障害者の各ライフステージで支援に携わっている方々：１０名
５　知事挨拶

「晴れの国おかやま生き活きプラン」の生き活き指標として、発達障害のある方々を支援する「発達障害者支援キーパーソンの登録者数」を本年度末で 100 人に、最終的には 300 人にすることを目指している。今回、皆様方から、今どういう取組をされているか、どういう課題があり、課題解決のためどういった取組をされているかについて伺いたい。

６　発言内容等

（現在の取組）

・　親の会では、発達障害児・者の支援に向けて、話し合いや、啓発活動、セミナー、シンポジウム、映画の上映会などを行っている。
・　市の保健師として、乳幼児健診等において、発達障害を疑うケースの相談に関わっている。また、要観察児教室の開催や思春期におけるチーム対応にも取り組んでいる。
・　保育所で保健士として、絵や写真によるスケジュール提示など、一人ずつに合った方法を模索しながら取り組んでいる。保護者の方と一緒に子供の育ちを支えていきたいと思う。
・　小学校１年生の学級担任として、保護者との連携、視覚的支援、肯定的な声掛け、アセスメントシートによる実態把握などを実践している。
・　大学の障害学生支援室で、発達障害の学生の個別カウンセリングと、研究室の先生や周囲の学生へのコンサルテーションを行っている。周囲の温かい理解の中で等身大の自分を受け入れることができるようになるとその後の人生もずいぶん変わって来ると思う。
・　障害者職業センターで、発達障害をはじめ障害のある人からの就職前の相談や職場定着に向けての支援など、地域の支援機関と連携しながら活動している。
・　医療機関の立場として、円滑な対人関係が築けるように育ちを支え、虐待のリスクの防止とご両親の支援につながるよう、正確な診断をはじめ、医療でやれることを今後も頑張りたい。
・　ペアレントメンターとして、同じ親の経験をしているからこそ、相手の状況に寄り添って共感でき、ポジティブな考え方を皆さんに提供することが大きな役割と考えている。
・　発達障害者支援コーディネーターとして、相談者の立場から見える市町村の課題を精査し、どういう支援体制を作っていけばいいのか、各関係者と検討していきたい。
・　県発達障害者支援センターでは、相談支援とともに、教諭、福祉事業者など支援者の後方的な支援、県や市町村の行政のシステムづくりの支援などを行っている。

（課題等）

- 障害福祉サービス制度や成人期の相談窓口の周知、人材の育成と配置、義務教育後の社会生活を見通した進路充実などの取組が必要だと感じる。
- 保健師が健診で発達障害の疑いに気づいた際、それを保護者や家族に伝え、理解してもらい、支援につなげていくことが難しいと感じている。また、行政と保育所、幼稚園といった組織が違う中で、個人情報のやりとりにとても苦慮している。
- 保育士が保護者と信頼関係を作り、子どもが適応できない部分を関係する機関へ上手に伝えていくことができれば、支援する関係機関等へのつながりが生まれ、その後の好循環が生まれる。
- 小学校では、児童が参加しやすい授業作り、教員の専門性の向上が大きな課題だと思う。また、少人数学級や複数指導の体制作りなども重要だと思う。
- 大学の教員には、丁寧に学生の話を聞いてくださいとお伝えしており、最近では発達障害をひとつの特性と捉えて関わってくれる教員が増えていると思う。
- 一般企業への就職のサポートの過程で、障害がある人の困難な部分について配慮を求め、発達障害を理解し、同僚として上手く受け入れてもらいながら、社会に貢献できる存在になれるのかということが大切だと感じている。
- 成人支援の取組は、関係する支援者が連携し、丁寧に介入すれば成功する事例も少なくないので、支援が実る分野だと思う。
- ペアレントメンター登録者数は地域的なばらつきがあるので、今後の活動を広げるには新規養成が必要と思う。地域柄という影響も大きいので、地域的な理解啓発が進まないと、貴重な人材が表に出て活躍しにくいと思う。
- 一貫した支援の構築のため多くの枠組みができているが、機能しているものは継続し、機能していないものは活用の方法を検証する必要がある。
- 発達障害者支援センターでは、市町村の保健、教育、福祉の担当課がそれぞれ単独で取り組むのではなく、横断的にタッグを組み、各ライフステージで支援を行う関係機関と繋がりながら一緒に仕事をすることを優先課題として取り組んでいる。

（その他）

- 発達障害のある人は、関係機関が連携して支援することができれば、一つのことを根気強くやることができるという長所を活かすなどにより、社会の中で安定して生活することができる。
- 発達障害のある人は、必要な支援が提供されれば納税者にもなれる。
- 多様性を集団の中で受け入れることができる社会は、発達障害のある人だけではなく、皆が生きやすい社会になるという考え方をする必要がある。

7　知事まとめ

- 発達障害支援では、移行期に情報の引継ぎをしっかり頑張ること、就労期にしっかりサポートすることなど支援のコツがあることを皆様方からお聞きすることができた。
- 発達障害のある人が持っているそれぞれの個性が生かせるように、自尊心の向上、生きている喜び、幸せの実感の向上に繋がるような支援を提供すれば、親御さんに安心感を与えることも可能であるという、非常に明るい希望を見せていただいた。
- それぞれの立場から、これからも発達障害のある人への支援を続けていただけるよう、県としても職員一丸となって精一杯頑張っていきたい。